

あきる野市教育委員会 7 月定例会会議録

- 1 開催日 平成27年7月23日(木)
- 2 開催時刻 午前9時00分
- 3 終了時刻 午後0時17分
- 4 場所 あきる野市役所 5階 503会議室
- 5 日程
 日程第1 議案第23号 平成28年度使用教科用図書(中学校)の採択について
 日程第2 議案第24号 あきる野市学校給食センター運営協議会委員の委嘱について
 日程第3 教育委員報告
- 6 出席委員
 委員長 山城清邦
 委員長職務代理者 田野倉美保
 委員 丹治充
 委員 宮田正彦
 教育長 宮林徹
- 7 欠席委員 なし
- 8 事務局出席者
 教育部長 森田勝
 指導担当部長 肝付俊朗
 生涯学習担当部長 関谷学
 教育総務課長 小林賢司
 教育施設担当課長 清水保治
 指導担当課長 西山豪一
 学校給食課長 木下義彦
 生涯学習スポーツ課長 鈴木将裕
 スポーツ・公民館担当課長 吉岡賢
 図書館長 松島満
 指導主事 梶井ひとみ

指 導 主 事

櫻 井 欣 也

9 事務局欠席者 なし

開会宣言 午前9時00分

委員長（山城清邦君）

おはようございます。定刻になりましたので、これよりあきる野市教育委員会7月定例会を開催いたします。

本日は、教育委員全員は出席しておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項に規定する定足数に達しておりますので、会議は成立しております。

本日、傍聴のご希望がございますので、許可いたします。

なお、本会議につきましては、傍聴の申込みが多数見込まれましたため、あきる野市教育委員会傍聴規則第2条の規定により、傍聴人の定員を30人といたしました。

事務局は、全員が出席しております。

それでは、議事日程に従って会議を進めます。

会議録署名委員につきましては、田野倉委員と宮田委員を指名いたします。

それでは、早速議事に入ります。

日程第1 議案第23号平成28年度使用教科用図書（中学校）の採択についてを上程いたします。

提出者は説明をお願いいたします。

教育長。

教育長（宮林 徹君）

それでは、議案第23号平成28年度使用教科用図書（中学校）の採択についての議案を提出いたします。肝付部長より説明します。

委員長（山城清邦君）

肝付部長。

指導担当部長（肝付俊朗君）

それでは、議案第23号平成28年度使用教科用図書（中学校）の採択についてご説明いたします。

教科書採択につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第23条の6により、教育委員会の職務権限が定められております。これに基づき、本市では、「あきる野市公立学校教科用図書選定要項」を定め、小中学校で使用する教科用図書について採択、決定することについて、教育委員会の責任を明確にしております。

今回採択いたします平成28年度使用中学校教科用図書につきましては、4カ年間使用する教科用図書となります。

あきる野市教育委員会といたしましては、教科用図書の採択が専門的な教科書研究に基づき、適正かつ公平になされるよう、専門性の高い教員で組織する教科専門部会、管理職で組織する調査委員会、そして市民、行政、学校の代表から成る選定資料審議会の組織をつくり、それぞれの立場から調査研究及び選定資料の作成を進めてまいりました。

また、教科書見本の閲覧につきましては、5月上旬から約1カ月間、学校に回覧し、学校から意見聴取いたしました。さらに、教育委員の皆様がいつでも閲覧、研究ができますよう、ご自宅に教科書見本を送付させていただきました。教科書センターにつきましては、

6月5日から7月8日までの展示会期間中に、延べ149名の市民の方々に閲覧いただき、広く皆様のお声をいただくことができました。

本日、配付させていただきました資料は、選定資料審議会が取りまとめ、教育長に報告した資料となります。各教科の教科用図書の選定につきましては、発行社名を列記した資料をもとに、その中から1社ずつ選定する方法でご審議をよろしくお願いいたします。

それでは、指導主事から選定資料審議会の報告書についての説明をさせていただきます。
指導主事（梶井ひとみ君）

それでは、選定資料審議会資料につきましてご説明いたします。

本年6月16日に開催されました第1回選定資料審議会において、あきる野市立秋多中学校、佐藤敏数校長を審議会委員長に選任し、公正な教科用図書採択事務手続の説明とともに、審議委員の方々に調査研究の内容及び日程等について確認いたしました。その後、7月13日、第2回選定資料審議会を開催し、資料を作成いたしました。

審議会の検討の基本資料としましたのは、中学校の管理職を中心とした専門性の高い教員によって調査研究された教科用図書調査委員会の報告書でございます。審議会では、実際に各教科書と照らしながら、1、内容の選択、2、配列・分量、3、表記・表現、4、使用上の便宜の4つの項目の所見につきまして、客観性を高めるために、表現などを整理しました。また、教科書展示会において市民の方々からいただきましたアンケートも参考資料といたしました。

以上の検討結果をお手元の資料の教科用図書選定資料審議会資料（様式4）にまとめました。

それでは、選定資料審議会の審議結果について、教科ごとに、特に評価の高かった教科用図書を中心にご説明申し上げます。

初めに、国語の審議結果について、ご報告申し上げます。

資料1、2ページをご覧ください。

国語の教科用図書は、全5社から発行されており、現在採択されている教科用図書は、光村図書です。

審議会において評価の高かったものは、三省堂、教育出版です。

三省堂は、教材の内容が多様で興味・関心を高める工夫があること。基礎的、基本的な学習内容の定着を図る工夫が見られること。また系統性や時間、分量の配分が考慮されており、使用しやすいこと。巻末等の資料が充実しているという点で高く評価されました。

教育出版は、内容について、文学作品、説明、文章ともに名作や現代的作家のものがバランスよく取り入れられており、生徒が興味・関心を持って主体的に学ぶことができる工夫が見られること。また、写真などが効果的に使われており、巻末の資料が充実しているという点で高く評価されました。

その他の教科用図書につきましては、お手元の資料をご参考にしていただきますようお願いいたします。

ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

国語についての説明がありました。ご意見をお願いいたします。

評価の高かった教科書は、教育出版と三省堂。現在使われている教科書は光村図書ということでございます。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

教育出版、三省堂と光村図書の教科書を拝見しました。三省堂、光村図書の内容が本当によく似通って書かれておりました。そういう点では、甲乙つけがたい感じがしました。そうした中で、私は教育出版がいいと思いました。扱っている内容、単元の系統性、そして分量も適切で、表記等についても大変読みやすく、表現等についても、写真などが効果的に提示されていると思いました。

また、内容を見ていきますと、文学の文章教材、学習漢字等のまとめや漢字練習問題が豊富に用意されていました。さらには、言語活動に関する話す、聞く、書くなどの技術や知識資料が大変充実していると感じました。

伝統文化に関する資料、特に能、狂言、落語などの紹介資料が、他社に比べて優れていたと私は感じました。そして、古典及び古典の知識にかかわる資料も、古典的な文章が多く、理解に必要な知識資料が大変充実していました。以上を考えますと、指導上の考慮も適切になされており、配慮が見られますので教育出版を推薦したいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

他の委員、ご意見いかがでしょうか。

教育長。

教育長（宮林 徹君）

今、丹治委員から教育出版と話がありました。この地域で長い期間使われているのは、光村図書です。光村図書の特色は、いつも三省堂との比較になりますが、基礎的な内容をしっかりと押さえているところです。そのため、国語の基礎・基本を教えるには、やはりこの教科書だろうということで、非常に長い期間、光村図書がこの地域で選ばれてきています。

この度、本市でもいろいろな勉強会を先生方がしています。上がってきた資料を見ると、教育出版が使いやすいんじゃないかという話もあるようです。私も教育出版と三省堂と光村図書の3つの教科書を特に見させていただきました。今、丹治委員が言われたように、教育出版が大変見やすく感じました。まず、教科書をひらくと、目次が非常にシンプルでした。まず、どんな教材が何のためにあるかということが非常にわかりやすく提示されています。他の教科書も目次はもちろんありますが、ごちゃごちゃとしていて、どれが目次かわからないというような教科書もありました。非常に単純で、明快で、わかりやすく、取っつきやすいなど、まず目次の所で感じました。

その3つの教科書の中で、古文や小説、戦争をどう教材化して教えているかを比較してみますと、どの教科書も甲乙つけがたい内容でした。もちろん古典なども、1年のときにはこれ、2年はこれ、3年はこれというように、きちっとどの教科書も必要な内容は同じ

ようにありました。

それから、小説も1年生のときには「少年の日の思い出」、2年生になったら「走れメロス」、3年になったら「故郷」と、定番の教材が、どの教科書にも同じように載っていますので、どちらがいいか悪いかは決めづらいです。ただ、戦争について考えさせられるような文章や詩も、私は適切なものだと思って見ていました。教育出版は、小中一貫教育を進める上で、小学校から中学校への連続性を非常に意識しているのではないかということが目に留まりました。

それから、言葉の活用力を育てるという点では、非常にこだわって教材化が図られていて、日本の伝統的な言語文化をきちっとして伝えていこうとする教科書なのかなと。他の教科書もちろん言葉は大事にしているんですが、教育出版は、そこが意図的に見えるように編集されていました。今年の教育出版は相当力を入れているなと思いました。

私は光村図書が好きで、いつも見ています。同じ内容のものを大事にしていくようで、題材の新しいものと古いもののバランスという点では、ややマンネリ化しているのかなと思いました。いずれの教科書も大変すばらしいと思いますが、教育出版が今年もし採択されると、先生方は教材研究もしっかりしますし、それもいいかなと思っているところです。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

今、丹治委員、宮林教育長からも話がありましたが、本当にそれぞれの教科書とも非常によく考えられていて、話す、聞く、書く、読むという、4つの能力が適切に育まれるよう、非常にバランスよく構成されていると思います。その中でも今評価の高かった教育出版については、基礎・基本の能力プラスさらに発展させていくということに関して非常に考えられていると思いました。

例えば、巻末資料が非常に充実していました。漢字の表は、どの教科書にも掲載されていますが、それにプラスして練習問題があって、主体的に勉強できるようになっています。言葉の自習室というコーナーでは、更なる学習ができるよう発展的な内容を取り扱っています。学びのチャレンジでは、教科書で扱った内容の振り返りから、別の視点で学習を深めるような内容を扱っていて、基礎・基本から生徒が主体的に、さらに深みのある学習ができるような配慮がされています。

また、巻末の折り込みのところに小倉百人一首や、近代文学史の年表、古典の文学者年表など、資料として非常に活用されやすいものが多く掲載されている点も非常に良かったと思います。

ただ、個人的な感想でいうと、表紙が少し寂しい印象がします。また、1年間毎日使っていくことを考えると、耐久性がどうなのかなと感じました。

今年度まで光村図書を使っていますが、個人的には光村図書もすばらしいなと思います。とても洗練されている教科書という印象で、日本人特有の表現や細やかな言葉遣いを学ぶ

ことについては、一番ふさわしい教科書だと感じました。例えば、裏表紙に「色いろの言葉」というのが掲載されていますが、単なる緑色という表現ではなく、いろいろな緑色の表現が載っていました。日本が昔から培ってきた、自然と共生しながら育んできた日本人の感性をあらわすような言葉遣いにも触れていて、豊かな表現力を育むには、光村図書が非常に適切だと感じました。

今の若い世代の語彙力がとても不足しているように感じます。何でも「かわいい」の一言で済ませてしまうようなきらいがあります。そういったことではなく、一つの現象に対して、いろいろな表現ができるように、力をつけてもらいたいと思ったので、私は光村図書もいいなと思っています。光村図書と教育出版が、私の中では甲乙つけがたい状況です。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

私は、三省堂と教育出版に注目しました。教育出版は、他の出版社に比べると、文学作品などもいろいろなジャンルが取り上げられていました。今の子にとって、読書自体が、なかなか取っつきにくい時代になっていると思います。教科書でいろいろなジャンルを取り上げることによって、興味や関心を持たせることが必要だと思うので、いい作品が載っているのではないかと思います。

それから、古典の分野でも、通常どの出版社でも竹取物語や短歌などが取り上げられていますが、教育出版では東海道中膝栗毛という作品を取り上げていました。文学作品でも、江戸時代のこういったおもしろい作品を読むことによって、歴史やその背景にある時代の流れを学ぶのにいい作品ではないかと思いました。

それから、表記や表現ですが、教育出版は一つの作品を取り上げて、項目立てをして、完結させて、また次の作品にいくという構成になっています。子供にとって、ただ作品を羅列して、それに対するめあてや学習を並べるよりも、わかりやすいのではないかと感じました。

それと、教育出版の中で、アイヌの知里幸恵さんの「銀のしづく降る降るまわりに」という作品が現代作品として取り上げられているのもいいかなと思いました。歴史でもアイヌの知里幸恵さんの作品「アイヌ神謡集」が取り上げられていたので、系統立てて歴史と関連して学ぶにはいいのではないかと思いました。

他の出版社もいろいろな作品を取り上げられ、大変良いと思います。三省堂は、写真や図表を大変効果的に工夫されていました。ただ、ページごとにいろいろな色を使っていて、それがカラフル過ぎて、作品に集中しづらいというところがあるのではないかと思います。

以上のことから、私としては教育出版が、他社よりも一つぬきんでているかなという印象を受けましたので、できれば教育出版を推薦したいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

皆様からご意見を伺いましたところ、やはり教育出版を推すご意見が多かったかと思えます。私からも感想を述べさせていただきます。内容は委員の皆さんにお話いただきましたので、違う観点からお話させていただきます。

それぞれの教科書に、グループディスカッション、ディベートについての項目が立てられています。三省堂の中学1年生の教科書には、論理で迫るか、感情に訴えるかという、討論ゲームが出ていて、他の教科書とはニュアンスが違うように思いました。

例えば教育出版ですと、1年生は、アイデアを出して話し合う。2年生では、役割を決めて討論する。3年生は、課題を解決するために話し合うという項目立てになっています。三省堂と教育出版は、甲乙つけがたいんですが、生徒が社会人になって必要となるグループディスカッションや討論、物事をどうやって決めていくかについて、論理で迫ったり、感情に訴えるかという項目立てはいかなものかなというところがありました。

それから、各教科に共通すると思いますが、理科や社会でレポートを書きなさいという項目があります。従来ですと、図書館へ行って調べる。図書館の図書の分類はどうなっているか。ということが基本的なノウハウとして必要になると思いますが、現代の子供はインターネットを使ってウィキペディアなどで調べているのだと思います。

生徒の実態と、教科書の図書館に行きましょうという記載が随分ずれているのではないかなという気がいたします。インターネットを使うと、手軽に情報が入りますから、私たちも使いますが、それを自分のものとして表現する場合に、何が必要で、何をしたらいけないかという注意をしている教科書が余りないのが、意外な感じがいたしました。

これはやはり国語が中心になって教育していく必要があると思います。どの教科書を使うに当たっても、現場の先生方は、インターネットを使う場合の作法や、自分が発信する際に気をつけなくてはいけないことなどを、国語の一番大事な役割として認識しておく必要があるのではないのでしょうか。その点を考えますと、各教科書とも不足している感じが正直言っていました。

それから、各教科書会社、切磋琢磨しているので参考にさせていただけるといいなと思ったのは、東京書籍で、1年生は四季を楽しむ言葉、2年生は四季を彩る言葉、3年生は四季を味わう言葉という、日本の四季を表す、いろいろなニュアンスについて、学年ごとに言葉を紹介しているというのはとてもよかったなと、その点は評価したいと思いました。

それでは、皆さんのご意見をまとめたいと思います。国語につきましては、教育出版を採用することにご異議ございませんか。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

それでは、国語につきましては、教育出版を採用することとして決定いたしました。

それでは、続いて、書写をお願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

続きまして、書写の審議結果について、ご報告申し上げます。

資料の3、4ページをご覧ください。

書写の教科用図書は全5社から発行されており、現在採択されている教科用図書は教育

出版です。

審議会において評価の高かったものは、三省堂、教育出版です。

三省堂は、基礎・基本の学習内容の定着が図ることができるような記述や説明があり、主体的な学習活動を促す工夫がされていること。また発達段階や系統性を考慮した配列であり、資料も手紙の書き方などが丁寧に説明されており、使いやすいという点が高く評価されました。

教育出版は、イラストや写真などを用いて、生徒の興味・関心を高めるとともに、発達段階や系統性を考慮した配列で工夫がされていること。また表記・表現がわかりやすく、生徒の生活に即した活用例などがあること。既習事項の一覧や折り込みの見本など、資料等も充実しており、使いやすいという点で高く評価されました。

その他の教科用図書につきましては、お手元の資料をご参考にさせていただきますようお願いいたします。

ご審議よろしくお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

それでは、書写についてご意見を伺います。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

書写については、教育出版が一番ふさわしいと思いました。今の説明にもありましたように、まず巻頭に、書くときの姿勢や用具の使い方などが、大きな写真でわかりやすく書かれています。また、全体的に写真やイラストが多く、生徒がすぐく見やすいし、わかりやすい工夫があります。

行書の基礎的な内容から段階を追って、だんだん発展的な内容まで系統立てて配列されているのも非常によいと思いました。

そして、本編の中にさまざまな文章、手紙、はがきやのし袋、エアメールの書き方まで盛り込まれているので、日常生活にすぐ役立つような内容になっていると思います。

また、巻末に常用漢字以外の人名の漢字表も掲載されているのもよいと思いました。

以上のことから教育出版を推したいと思います

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

他にご意見ございますか。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

私も田野倉委員と似通った意見ですが、特に書写において取り上げられている文字は、日々の国語科の授業の中でも扱われ、生徒の生活と関連性を持たせるためのものを求めているのだらうと思います。

また、文字の大きさや配列、写真が習得させる上で効果的に使われているなど思いました。

あと、日常生活に即した活用事例があり、書写学習の上で興味・関心を高めるという点で使いやすい構成だろうと思います。

また、今回東京オリンピック・パラリンピック関連の教材等も取り上げている点なども評価できることから、教育出版を推薦したいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

教育長。

教育長（宮林 徹君）

書写の場合は、どの教科書も毛筆指導を重点的に扱っています。私は、いつも書写の教科書を見るときポイントがあります。日常的に硬筆指導で、鉛筆やペンを持ちながら指導する、そこがどのくらい丁寧に書かれているかです。例えば、原稿用紙の書き方や手紙、電文はどのように書くのか。あるいは時候の挨拶、のし袋の書き方とか、いろいろなものがあると思います。はがきの裏表の書き方、差出人の書き方などの基本的な書き方をどのくらいの分量で教えているのかなという視点で書写の教科書を見ました。

その点だけを見て、もし私が指導すると考えたときに、光村図書の教科書が一番指導しやすいなと思いました。分量も多く、時候の挨拶も春、夏、秋、冬の季節の時候の挨拶を示している教科書もありますが、光村図書の教科書は1月、2月、3月と12カ月分の時候の挨拶の代表的な言葉が大きく書いてあります。その点でいえば、光村図書の教材が教えやすいなと私自身も教えてきたので思いました。

しかし、イラストや写真、解説があつたり、興味・関心を持たせるようなものとして全体を見ると、やはり今まで使っていた教育出版の教科書もまたいいなと思ったりします。私自身は、どちらが選ばれてもいいです。でも、光村図書がいいと、あえて申し上げておきたいと思います。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

中学の書写というのは、楷書から行書へ移行するわけですが、大人でも行書で書写するというのは大変難しいと思います。そういった勉強をするわけですから、ある程度行書について詳しく書かれた本の方がいいかなと思いました。三省堂が行書について詳しく書かれていたなと思いました。

毛筆ではありませんが、ノートのとり方と学力が関係してくることを考えると、ある程度詳しく指導してくれる教科書がいいかなとも思いました。その点では、東京書籍が、他の出版社に比べて詳しく説明がありました。教育出版は、資料もたくさんあり、全体的に見て大変バランスがよく、書写を勉強するには、教育出版の方がいいのではないかという印象です。私としては、教育出版を第一に推薦したいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

私も教育出版の一番いいところは、今お話があったように、硬筆の持ち方が詳しく書かれているところだと思います。日常でも、コンビニに行って、レジで領収書を書いてもらうときのペンの持ち方が気になることが大変多いです。この教科書を読んで欲しいくらい、鉛筆、ボールペンの持ち方ができていないと感じます。その点について、光村図書、教育出版はかなり詳しく触れていると思います。

それから、なぜ書写を学ぶのかということについても触れています。これもやはり大事なことだと思います。

私なりに一番よかったと思ったのは、教材として何が記載されているかです。例えば王羲之の見本が挙がっているのも、それはそれですばらしいんですが、教育出版の場合、1年生の場合には金子みすゞの詩、それから2年生の場合には平家物語、それから3年生の場合には奥の細道がテーマとして挙がっています。これは単に字を書くばかりではなく、作品への興味を持たせるという点では、金子みすゞ、平家物語、奥の細道はとてもいい提示の仕方ではないかなと思いました。

それと、光村図書のいいところは、巻末に中学生の生活に即した資料が具体的に掲載されていて、役に立つなと思いました。その点は、教育出版もかなり充実していると思います。

三省堂のいい点は、中国の王羲之をはじめとする有名な書家ばかりでなく、日本の三筆三蹟の作品も掲示をされていました。この点は、やはり大事なことではないかと思いました。

私も総じて甲乙つけがたいところはございますが、教育出版を推したいと結論を出したところでございます。

それでは、結論としては、教育出版を推す声が多数であると思います。よろしいでしょうか。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

それでは、書写につきましては、教育出版を採用するということで決定いたします。

それでは次に、社会 地理的分野をお願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

それでは、社会の地理的分野の審議結果について、ご報告を申し上げます。

資料の5、6ページをご覧ください。

地理的分野の教科用図書は全4社から発行されており、現在採用されている教科用図書は東京書籍です。

審議会において評価が高かった教科用図書は、東京書籍、教育出版です。

東京書籍は、各単元に「確認」「深めよう」があり、生徒の主体的な学習を促す工夫がされていること。「オリンピックと東京」のコーナーが充実していること。配列や分量について系統性や発達段階が考慮されており、工夫が見られること。写真等が鮮明で、学習の導入も使いやすく、巻末資料等も充実し、見やすい印刷状態であるという点で高く評価されました。

教育出版は、「振り返る」「学習課題」等で、基礎・基本の定着を図る工夫が見られること。また系統性や発達段階が考慮されていること。印刷等の状態がよく、使いやすいという点で高く評価されました。

その他の教科用図書につきましては、お手元の資料をご参考にさせていただきますようお願いいたします。

ご審議よろしくをお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

それでは、地理的分野につきまして、ご意見を伺います。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

地理については、それぞれの教科書に本当に特徴があり、内容等についても、学習指導要領に定められたものとなっております。その中では、教育出版を推したいと思います。

先ほどの説明にもありましたが、各単元の目的がはっきりと明記されていました。

それから、構成上の配分、分量についても、中学生の発達段階を考慮した扱いができていのかと思いました。そのために学習の確認、深化させるような場面が考えられている教科書だなと。そして、それらを通じて生徒の興味・関心、学ぶ意欲というものも喚起できる構成になっているのではないかと思います。

あと、先ほどの教科書でも述べられていましたが、文章、あるいは写真のレイアウト等についても、大変面白い見出しで、生徒も親しみを持って受け入れられるような内容になっているのではないかと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

他にご意見ありましたら、どうぞ。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

今、丹治委員からは教育出版を推したいというお話がありました。教育出版の良い点はまず巻頭で、なぜ地理を学ぶのかという、大前提を述べているところです。

また、これも巻頭の「地理にアプローチ」では、地図やグラフの読み取り方など、本当に基礎・基本的なところから押さえており、生徒にとってとても親切だと思いました。

学習の内容を確認できる振り返りや、教科書の中に生徒が自分で書き込めるスペースもあり、主体的に学習ができる構成になっているのも非常に良いと思います。

ただ、私自身としては、東京書籍を推したいと思います。東京書籍の良い点は、巻頭に小学校の既習事項の確認があり、スムーズに中学校の学習に接続できるような構成になっています。また見開きごとに、授業のねらいというのが明確に示されていて、この時間では、こういったことを勉強するんだなというのが、生徒にとってとてもわかりやすくなっています。

本編以外にも、地理スキルアップや調査の達人、地理にアクセスという、コラムのよう

な形のさまざまなコーナーがあります。大人が読んでも、興味・関心を持つような内容になっているので、生徒が読んでも、こんなことがあったんだと、興味深く面白く読めるのではないのでしょうか。

写真やイラストも非常にきれいで、効果的に使われていて、生徒にとって内容を理解するのに非常に手助けになると思います。

また、先ほど選定資料審議会の所見にもありましたが、東京オリンピック・パラリンピックについても、きちんと書いてあって内容が充実しているのです、生徒たちの興味や関心を高めるのに非常に役立つと思います。

巻末の資料も文字が少し大き目なので、非常に見やすく感じました。

内容についてですが、他の教科書と比べて、自然災害や環境、エネルギー問題など今日的な課題について、少し大き目に取り扱っているように感じました。私は、それを評価したいと思います。

また、世界や日本のさまざまな地域の調査という章があるんですが、とても細かく丁寧にその手順が示されていて、生徒にとって学習しやすいと思いました。

ということで、私は東京書籍がふさわしいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

意見が対立してまいりました。

教育長。

教育長（宮林 徹君）

私も結論から申し上げますと、東京書籍の教科書かなと思っています。先ほどもお話がありましたように、歴史的分野との関連を示しながら、小学校から中学校への指導の関連性が図られています。小中一貫教育を進めている本市としては、大変よく配慮されていて、使いやすいただろうかなと思っています。

総花的に申し上げますと、東京書籍の教科書というのは、基礎的な知識や概念、技能をしっかりと身につけながら公正な判断力をつけさせると思います。そういう点では、一番バランスがいいのではないかと思います。

今日的な課題についても、しっかりと目を向けながら、教材化を意図的に図っていくということが読み手にわかるようにしてくれているかなと思います。写真が非常に明るくて見やすいですね。以上の点が、他の教科書と比べると、少し秀でていないかなと思います。私は地理の分野は東京書籍がよろしいかなと思います。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

宮田委員、どうぞ。

委員（宮田正彦君）

私は、東京書籍と教育出版、帝国書院が甲乙つけがたい内容かなと思いました。その中で身近な地域調査については、外へ出て実際に調べなくてはいけない分野だと思います。身近な地域調査という内容が、東京書籍と教育出版は大変わかりやすく、学習指導できる

なという点がいいかなと思います。

ただ、教育出版と帝国書院、それぞれレイアウトや写真の部分で気になる点がありました。教育出版は、細かい点ですが少し写真が濃過ぎるのではないかという点と、図や写真が同じページの中で、いろいろな大きさをレイアウトされていて、子供にとっては見にくいのではないかなと思いました。

また、帝国書院は、やはり写真や図が豊富に使用されていますが、かえって多過ぎて見にくいのではないかという印象でした。

それに対して東京書籍は、表記・表現、写真や図版が大変見やすい色彩で、大きさもあって、大変見やすい印象を受けました。また、特に秀でているのは、先ほど委員からお話のありましたスキルアップやアクセス、勉強をしてどう自分のものとしてつなげていくかという部分で東京書籍がやはり少し上回っているのではないかという印象を受けました。私としては東京書籍を第一に推薦したいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

それでは、私から感想を述べさせていただきます。

地理という教科が、子供たちにとって、どんな勉強なのか、なぜ勉強するのかをはっきり提示しているのは教育出版だと思います。なぜ地理を勉強するのかについては、帝国書院、東京書籍においては何度読んでもよくわからなかったです。教育出版は、その点かなり詳しく書いてありました。知らない土地に対する憧れや好奇心に答えていくことが地理の学習です。それから、どんな自然環境の中で生活しているのか、どんな歴史的・文化的な背景を持っているのか、経済はどんな産業によって支えられているのかという問いもきちんと掲載されています。これらの問いに答えるのが地理という勉強だということを最初にきちんと提示しているという点で、優れていると思います。

やはり地形や気候、民族や歴史、産業などによって、その社会はどんなになっているのかを分析するのが地理の勉強だと思います。その点、教育出版が巻頭で、なぜ勉強するのかをきちんと提示していることは非常に好ましいと思います。これは当たり前のことだと思っていたんですが、意外と他の教科書会社は内容的に詳しく触れていないと思います。中学生にしてみると、公民や地理というのは、そんなに興味を持って勉強しようという気を起こさせる教科なのだろうか。その点でも、教育出版の問題提起というのは大事なことだと思います。私は、他の内容面のこともあって、教育出版を推したいと思います。

5人の意見が出まして、東京書籍を推す委員が3人、教育出版を推す委員が2人ということによろしいでしょうか。

多数決はとりませんが、東京書籍を推す方が多いということで、東京書籍を採択する教科書として決定するというので、よろしいでしょうか。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

では、そのようにさせていただきます。

社会 地理的分野につきましては、東京書籍を採択することで決定いたしました。

それでは、次の社会 歴史的分野をお願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

それでは、社会の歴史的分野の審議結果について、ご報告申し上げます。

資料7、8、9ページをご覧ください。教科用図書は全8社から発行されており、現在採用されている教科用図書は東京書籍です。

審議会において評価の高かったものは、東京書籍、教育出版、学び舎です。

東京書籍は、「確認」「えんぴつマーク」が活用しやすく、資料等も新しいものが多いこと。系統性、発達段階が考慮されており、見開き1ページで学習しやすい工夫がされていること。表記・表現等もわかりやすく、各ページの下に簡単な年表があり、使いやすいという点で評価されました。

教育出版は、「ふりかえる」などに工夫がされていること。見開き2ページでまとめられており、内容、分量ともに使いやすいという点で評価されました。

学び舎は、資料等が新しく、生徒の興味・関心を引く工夫がされているという点で評価されました。

その他の教科用図書につきましては、お手元の資料をご参考にさせていただきますよう、お願いいたします。

ご審議、よろしくお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

社会 歴史的分野についての審議に入ります。

ご意見どうぞ。全部で8社ですね。

教育長。

教育長（宮林 徹君）

歴史的分野の教科書は、いろいろ話題があるところであります。東京書籍は非常に基礎的・基本的な知識をしっかりと教えてあって、特に公正な判断力をしっかりとつけさせるという視点が、いろいろなところにちりばめられていると思います。

もう一つは、小学校で習ったことが、歴史学習の導入から始まって、小中一貫教育などの視点をしっかりと捉えていく授業ができる教科書なのではないかと思います。先生方も感じているようですが、東京書籍がいいかと思っています。

五日市憲法の記載は、今やどの教科書にも必ずあるようです。そんなに分量は多くなくてもいいですが、必ず記載がありますし、新しい資料も随分用意されていますので、本市にとって大変バランスのいい教科書だと思っています。

私は、東京書籍がいいと思います。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

では、宮田委員、どうぞ。

委員（宮田正彦君）

私は、東京書籍と教育出版、それから学び舎に注目して拝見しました。あとの清水書院は、表記や表現の色合いが濃過ぎるということや、形や大きさがいろいろあって、先ほど

の地理でも話にありましたが、いろいろ取り入れられ過ぎて、かえって見にくいというところがマイナスかなという気がします。

自由社は、学習のテキストとしては、生徒に対する働きかけが少なく感じました。その点が、教科書としては、適していないと考えられると思います。

育鵬社は、写真が大変暗くて、見にくいというところがマイナスかなという気がします。

それから、学び舎は、学習のめあてとか、ねらいとか、自分で考えていくための考慮が少し少ないかなと。それから、読みものとしてはよいと思われるのですが、学習するという点からは、歴史上起こった出来事に対する背景が記されていないなど、教科書としてはマイナスではないかなという気がいたします。

東京書籍と教育出版ですが、この2つはどちらもいいかなと思いました。東京書籍は、第1章で基本的な時代区分など、基礎的なことが大変詳しく書かれていました。それから、調べ学習やまとめをしやすいように工夫されている点が大変いいなと思います。

それから、歴史というのは、その時代ごとに起こった出来事を文章で示しているものですが、そういった学習内容と、写真や図が適切に使われている点で、歴史を学ぶには大変よい教科書ではないかと思いました。私としては、東京書籍を推薦したいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

他の委員さんいかがですか。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

私も先ほど説明があった3社を中心に拝見しました。あきる野市が育てたい子供の姿を考えますと、基礎的、基本的な思考力や知的概念、技能を身につけられることが大切かと思えます。なおかつ、よりよい社会に参画できる生徒、すなわち公正な判断力、豊かな表現力を持つ生徒だろうと思えます。

そういった観点も考慮して、東京書籍を拝見しますと、やはり学習内容が端的に示されていると思います。最初に大きく配置されていて、子供たちの興味・関心を引き出すだろうと感じられました。

さらに、単元毎の学習の見通しを学習課題として示している点、学ぶねらいを提示している点では、どの教科書よりも優れているのかなと思いました。また、さらに資料が豊富であるという点も挙げられます。

ただ、この歴史分野だけではなく、公民の分野とも相互に関連性があるので、公民の教科書も拝見しました。1時間ごとの振り返り学習や、発達段階に応じた難易度を設定し、それを確実に理解させ、習得させていくという点で、やはり大事な視点だろうと感じました。

それから、本市が進めている特別支援教育について、全生徒に興味・関心を高めて、意欲を持って学習するためのユニバーサルデザインに配慮した学習内容、紙面構成になっている気がいたしました。

それから、あきる野市の五日市憲法草案については、特に外せない視点ですから、そち

らについても拝見しました。その点では、学び舎が非常に詳しく丁寧に、子供たちの学習へのきっかけをつくってくれるだろうという思いを持ちました。五日市憲法草案が、調べ学習、あるいは課題別学習等の中で扱われたら、もっとおもしろくなるんじゃないかと思いました。そういう点では、ページは丁寧に提示した方がいいことはいいんですが、子供たちに調べさせるには、そうでなくともよかったかなという思いを持ちました。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

私も東京書籍と教育出版、学び舎を中心に見させていただきました。学び舎は、本当に斬新な教科書というか、新しい視点から歴史を見ているというのは確かに感じます。読み物としては非常におもしろく、読者の興味をかき立てる内容になっていると思います。しかし、基礎・基本として、公立の中学校で先生方が中学生に教える教科書としては、どうなのかなと思いました。

その点、教育出版は先ほど山城委員長がおっしゃったように、なぜ歴史を学ぶのか。その歴史を学んで、これからの自分たちの未来にどう生かしていくのかという問題提起をしているのは非常に評価したいと思いました。

あきる野市は特別支援教育を推進しています。教育出版の教科書では、地理の教科書にもユニバーサルデザインについて、巻頭の裏に記載してありました。そしてそれに呼応する形で、歴史の教科書に点字の歴史についても表記してあったのは、すごくいいと思いました。

また、見開きで学習課題が明記されており、生徒が目標を持ちやすいのもいいと思います。

内容ですが、隣国と向き合うためにという章で、東アジアの国々との関係や領土問題、北朝鮮の拉致問題などもかなり詳しく掘り下げて触れられており、生徒が今日本が隣国とどういう状況になっているか非常に理解しやすいと思いました。

もう一つ、東京出版ですが、見開きで、その1時間の内容が見られるというのは非常に生徒にとって学習しやすいと思いました。同じようにスキルアップや歴史にアクセスなど、さまざまなコーナーがあって、生徒の興味や関心を引き立てるような工夫もされています。

特に東京出版で私が目についたのは、女性のコラムというのがあって、それぞれの時代の女性の姿を紹介していることが、とても目新しく感じました。

私としては、東京書籍と教育出版、どちらも甲乙つけがたい感じがいたします。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

私は、なぜ歴史を勉強するのかということは、極めて大事な話だと思います。その点について、きちっと定義しているのは、今お話があったように教育出版です。なぜ歴史を学ぶのか、巻頭の「歴史の学習を始めよう」で、歴史の教訓や背景、日本の歩み、アジアの

国々との深い関係、この3つが挙げられていると思います。東京書籍では、「歴史学習の初めに」の中で、歴史を学ぶ意義を震災の話で説明しています。これはもちろん大事なインパクトであると思いますが、歴史はもっと広いものですので、それだけでは不十分です。歴史とは何かというテーマで本が出てくるぐらい普遍的な課題だと思います。その点について、中学生であっても、やはりきちんと提示すべきではないかと思います。その点に関して、教育出版以外は私としては、非常に寂しい感じがいたしました。

それから、ほかではどこの会社がいいのかなと見たところ、地味ですが帝国書院がいろいろな課題について掲載しているのではないかなと感じました。

学び舎ですが、確かに新しい問題意識を持って書かれていることはよくわかります。先ほど、読みものの的だというお話がありましたが、それはなぜかという、取っつきやすいフレーズを使っているからだと思います。その辺、非常に微妙な価値観が錯綜する分野の教科書としてはどうなのかなと疑問に思いました。公立学校の教科書として使うのはいかなものかなと感じられました。

歴史というのは、長い間にいろいろなことがありますし、一筋縄ではいかない分野でもあります。常に現代の価値観、政治情勢などにぶつかってしまう非常に複雑な分野ですので、できるだけ客観、公正に書かれているものということで見ますと、最終的には消極的ながら東京書籍を推すということで、よろしいのかなと思います。

歴史に関して、他に言っておこうという点がありましたら、どうぞ。

《なし》

委員長（山城清邦君）

よろしいですか。

《はい》

委員長（山城清邦君）

それでは、社会 歴史的分野につきましては、東京書籍を全員で推すということで決定したいと思います。

それでは次に、社会 公民的分野に移ります。傍聴の方々に申し上げます。委員会が始まって、1時間が経過いたしました。次に公民的分野の審議後、地図を審議いたします。その地図が終わったところで、20分間ほどの休憩をとる予定であります。あらかじめご承知おきください。

それでは、社会 公民的分野をお願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

それでは、社会 公民的分野の審議結果についてご報告申し上げます。

資料の10ページ、11ページ、12ページをご覧ください。

教科用図書は、全7社から発行されており、現在採択されている教科用図書は、東京書籍です。

審議会において評価の高かったものは、東京書籍、教育出版、帝国書院です。

東京書籍は、テーマが身近なものが多く、生徒の生活や学習の実態に合っており、興味・関心を引くよう工夫がされていること。章末の確認では、基礎・基本の定着を図ることができるよう考慮されていること。コラムでは時事的な問題を多く扱っており、生徒の学び

方や考え方を深め、主体的な学習活動が期待できること。系統性や発達段階が考慮されていること。資料等も充実しており、写真、図表が大きく扱いやすいという点で高く評価されました。

教育出版は、はじめとまとめに工夫があり、興味・関心を高め、主体的な学習活動が期待できること。図表等が充実しており、資料がわかりやすいという点で高く評価されました。

帝国書院は、ページごとに課題が設定されており、学習を捉えやすい工夫がされていること。表記・表現等については、色合い等が落ちついており、見やすいという点で高く評価されました。

その他の教科用図書につきましては、お手元の資料をご参考にさせていただきますよう、お願いいたします。

ご審議、よろしくお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

公民的分野について、ご意見どうぞ。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

先ほどの歴史的分野の教科書との関連もあるかと思えます。私は結論から申し上げますと、東京書籍がいいと考えています。

理由は、特に小学校で習った学習用語や学習内容、それらに関する写真等が掲載してある点。また、小学校の地理分野や歴史分野の振り返り学習があり、各分野無理なく学習への導入ができるだろうなと思ったからです。

そういった関係もあり、また、歴史との関連も深いので、同じ東京書籍を推したいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

公民的分野ですが、東京書籍、教育出版の2つがいいと思っています。まず、東京書籍のいいところは、見開きページで1時間ごとの学習がしやすい。また、さまざまなコーナーを設けて生徒の意欲や関心を高めつつ、章末の確認問題で基礎・基本の技能を身につけられるような構成になっています。

先ほどの説明にもありましたが、テーマや課題を身近な生活に置きかえて、生徒が理解しやすいような、生徒が関心を持って主体的に考えられるような工夫があります。写真やイラストも非常に見やすく、学習していく上で非常に効果的だと思いました。

本文の他に、「公民にチャレンジ」では、個人やグループで行う作業や活動を取り上げており、主体的な学習ができるようになっていきます。また、言語活動を多く取り入れているところも評価したいと思います。

生徒たちも日々さまざまなニュースを耳にするとおもいます。その点、中東和平の問題や日本の領土問題などについても、かなり掘り下げて記載してあり、生徒が関心を持って理解できるようになっているとおもいます。

教育出版のいいところですが、構成が同じなので地理や歴史と重複する内容になってしましますが、巻頭に、なぜ公民を自分たちは学ぶのかという記載がある点です。また地理や歴史の教科書に呼応する形で、ユニバーサルデザインによるまちづくりについても記載してある点は評価したいとおもいます。

「公民にアプローチ」というコーナーで、新聞の活用法について説明しているのもいいとおもいます。新聞を読まなくてもテレビやインターネットなどで情報は確かに得られるとは思いますが、新聞にも、新聞なりのいいところがあるので、ぜひ活用をしていただきたいという思いがあります。

内容については、これからの日本の平和主義のあり方と平和構築についてというところで、生徒たちに、自分たちはこれから日本の社会をどうしていったらいいだろうという考えを深めさせるような記述になっているのはとてもよいとおもいました。

ということで、東京書籍と教育出版が同じぐらいにふさわしいとおもっています。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

教育長。

教育長（宮林 徹君）

3分野の教科書は、基本的には同じものがないんじゃないかとおもいます。今言ったように教育出版や他の教科書、それぞれの内容も優れていますが、地理と歴史分野の教科書が東京書籍です。内容は、今2人の委員がおっしゃってくださいましたし、私はこの3つの分野は同じ教科書で勉強していくのがいいとおもいます。特にこの公民の分野では、コラムなどでは国際、環境問題を多く取り上げているし、身近なテーマや最新の事例で関心を持たせるようにしてあったり、教材の配列や分量も適切だとおもいます。同じ教科書会社の3分野の教科書を使っていくのが混乱もないしいいとおもいます。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

私も東京書籍を推したいとおもいます。全体的なバランスという点でぬきんでているという印象です。こういった難しい教科の学習をすることを考えると、教科書の中にコラムをつくって、読んで考えさせるという工夫もされていますし、資料も大変工夫されてつくられているなとおもいました。興味を持たせやすいという点では、東京書籍がいいのではないかとおもいます。他の委員の方もお話されていましたが、私もそういう点でいいのではないかとおもっています。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

先ほども申し上げましたが、社会の3分野、地理、歴史、公民がどういう関係にあるのかということ、おそらく中学生向けに説明してみよと言っても難しいところだと思います。その点、育鵬社に地理、歴史、公民の概念図というのがあって、なかなか優れていると思いました。地理と歴史と公民は、こんな関係にあるんだよという具体的な概念図を授業の初めに提示することは、勉強において羅針盤を与えるような意味でも大事なことじゃないかと思います。他の会社は、そういった意味では、地理と歴史と公民について、文章や絵でしっかりと関係を書いたものがなかったのが意外でした。

それから、宗教や伝統に関して各教科書とも及び腰のところがあるように思いました。例えば世界で問題になっているイスラムについても、なぜあのような宗教運動が起きている、自ら命を捨てるのかという問題は、もちろん経済的、政治的な関係もありますが、やはり信念として生きている宗教的な理論や背景がなければ、ああいうことはあり得ないと思います。そういった意味で、広い意味での宗教、あるいは日本の伝統など、もっと生きている、生活をしている上で非常に身近な問題の背景を掘り下げた公民の教科書が意外とないのだなと感じました。

あと、各社とも裁判員になったらというテーマが取り上げられていました。これはとても大事なことだと思います。内容に差はありましたが、全体的に言うと、東京書籍でよいのかなと私も思います。

他にご意見はございますか。

《なし》

委員長（山城清邦君）

よろしいですか。

《はい》

委員長（山城清邦君）

それでは、社会 公民的分野につきましては、東京書籍を採択するという事で決定したいと思います。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

では、続きまして、地図をお願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

それでは、地図の審議結果について、ご報告申し上げます。

資料13ページをご覧ください。

地図の教科用図書は、全2社から発行されており、現在採択されている教科用図書は、帝国書院です。

東京書籍は、生徒の興味・関心を高める工夫がされていること。系統性があり、歴史的分野との関連性があるという点が評価されました。

帝国書院は、資料が新しく、分量も適切であり、使用しやすいこと。地図の色彩が鮮やかで効果的であるという点が評価されました。

地図についての報告は以上です。

ご審議、よろしくお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

ご意見どうぞ。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

地図は、帝国書院と東京書籍の2社なので、本当に見比べて違いがわかりやすかったです。今説明にもありましたとおり、帝国書院の方が、使われている色が鮮明で地図を見ても読み取りやすいと感じました。

また、巻頭に地図帳の記号や使い方が書いてあって非常にわかりやすいと思います。

それぞれの地域の資料図も、さまざまな観点から適切な色彩で描かれていて、地域の特徴が非常にわかりやすく感じました。

あと、あきる野市がどのように書かれているかも見ました。あきる野市の地名とともに、主な歴史の舞台というところで、五日市憲法がしっかり紹介されていたのは非常によかったです。

巻末の資料で、地球全体についての大きさ、緯度、経度にまで触れているのは非常に評価したいと思います。

東京書籍の方で、いいと感じたのは、日本全体の資料で、世界と日本の資源やエネルギーについて細かく触れていて、今日的な問題提起になっていると思いました。あと、巻末の統計資料の字が、帝国書院よりも少し大き目で見やすく、地色が白地でなく非常に見やすく感じました。ですが、全体的な内容としては、帝国書院を推したいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

同意見です。第一の観点としては、まず見やすいかどうかですね。それから、例えば色弱の子もいますから、その点についても配慮されているのかについても見比べながら、拝見しました。見やすく使いやすいということで、地図については、帝国書院を推したいと思います。

以上です。

教育長（宮林 徹君）

私も帝国書院です。

委員長（山城清邦君）

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

私も帝国書院で同じ意見です。

委員長（山城清邦君）

私は、この地図については、そんなに差はないのかなという気がいたします。ただ、帝国書院でよかったのは、アジアの鳥瞰図です。大陸から太平洋を眺めた鳥瞰図で、最近よ

く見るようになったと思います。大陸から見た日本が、どういう配列になっているのかという鳥瞰図があって、よかったと思います。

それから、いろいろな資料がそろっておりますので、帝国書院を推すのは反対ではありません。細かい点ですが、各宗教間の扱いに少し差異があるように感じました。その点、東京書籍の方が、多少差異がないのかなと思いました。これはただの意見です。

それでは、地図に関しては、帝国書院の地図ということによろしいでしょうが。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

では、地図に関しては、帝国書院に決定いたします。

それでは、ただ今10時25分になろうとしておりますので、10時45分まで休憩いたします。ありがとうございました。

休憩 午前10時25分

再開 午前10時45分

委員長（山城清邦君）

それでは、10時45分になりましたので、議事を再開いたします。その前に申し上げますが、本日は議事が2件ございます。ただいま議案第23号の審議をしておりますが、次の議案第24号は人事案件ですので、非公開となります。その次の教育委員報告は非公開ではございません。この教科書審議が終わりましたら、一旦、人事案件の非公開の議事日程に入ります。傍聴人の方、もしお帰りになる方は、この教科書の審議が終わった段階でお帰りいただいても結構です。あらかじめお話ししておきます。

それでは、議事を再開いたします。

今度は数学、説明をお願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

それでは、数学の審議結果について、ご報告申し上げます。

資料の14、15、16ページをご覧ください。

数学の教科用図書は、全7社から発行されており、現在採択されている教科用図書は、東京書籍です。

審議会において評価の高かったものは、東京書籍、大日本図書、教育出版です。

東京書籍は、日常生活における数学の問題を扱っており、生徒の興味・関心を高める工夫がされていること。また「学び合い」のページでは、生徒が主体的に考えるための工夫がされていること。カラー表記された説明、図、写真などが効果的に使われており、使いやすい点が高く評価されました。

大日本図書は、学習内容ごとのねらいが示されており、学習に取り組みやすいこと。また単元末には「章の問題」「いろいろな問題」で応用・発展につながる配慮がされているといった点が高く評価されました。

教育出版は、章の初めに「復習」「Let's Try」があり、取り組みやすい構成であること。章末の「学習のまとめ」は、基本的な内容を振り返ることができるよう工夫がされていること。系統性や発達段階が考慮された配列であるという点が高く評価されました。

その他の教科用図書につきましては、お手元の資料をご参考にさせていただきますよう、

お願いいたします。

ご審議、よろしくお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

ご意見をどうぞ。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

数学ということですが、私自身余り数学が得意ではないので、どの教科書を使っても、そんなに大きな差異がないのではないかと思いました。先生が授業中にどういった説明をして、生徒にどう教えるかという、先生の力量が一番問われる教科だと思っています。

その中でも、一番いいと思ったのが東京書籍です。計算問題は別にして、おそらく、数学が苦手な方というのは、文章題が出た際に、それをどう式にしていくのかが、わからないというのが一番大きいと思います。文章題の場合に、どこに着目をして問いていけばいいか、問題の着目点を非常に明確に表現してあって、生徒にとってはわかりやすいのではないかと思いました。説明や図、写真なども効果的に使われています。

また、巻頭にノートを使い方や単位の書き方、数学で使われる考え方などをまとめて紹介しており、導入として非常に適切だと思います。各章の初めの振り返りのコーナーで、学習したことを確認したり、それを踏まえて次のステップに進むなど、基礎から順々に発展していくような構成でつくられていて、非常によいと思います。

そして、各章の終わりにはまとめの問題があり、基礎・基本の定着を図った上で応用力、活用力が身につけられるように配慮されています。

最後に、巻末には復習問題が取り上げられていて、家庭学習で生徒が主体的に学習をする上でも非常に効果的だと思いました。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

私も東京書籍を推したいと思っています。まず、子供たちにとっての思考、判断、表現などの力の育成のための問題解決型学習の内容が編集されていると思います。それから、学び合い学習が自己の考える場面から紙面に移っていく、互いに議論ができる構成になっているという点で評価したいと思います。

それから、数学の活用問題や算数振り返り問題があるところです。なぜかというと、本市の場合には、小中一貫教育の学習の流れもありますので、算数と数学の連結という観点が大切なのと、3年生では3年間の振り返りができるという点です。

最後に、先ほども申し上げましたが、本市の特別支援教育の観点、ユニバーサルデザインの観点から、配色やレイアウトの工夫が大変丁寧につくられた教科書だと感じました。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

どれもいい教科書で、それぞれ工夫されていると思いました。ただ、その中で特にと言われると、やはり東京書籍と大日本図書の本がいいなと感じました。数学は、うちの子供を見ていても、すぐに伸びるとかそういうものではなく、ある程度の積み重ねを繰り返し、繰り返してやって、それで伸びていく教科だと思っています。まず小学生の算数の授業が当然大切なので、それを発展させて中学の数学へ移行していくことを考えると、やはり東京書籍の本の組み立て方、構成が他社よりも秀でていると感じました。

また、今現在小学校でも中学校でも少人数で勉強することが多いので、そういったグループ的なまとまりの中で考えると、東京書籍が取り入れているいろいろな工夫、グループワークが勉強を促して活用しやすいのではないかと思い、東京書籍を推したいと思います。以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

教育長。

教育長（宮林 徹君）

私も同じように東京書籍がよろしいと思います。やはり、基礎・基本をどうやって教えるかということ考えたときに、東京書籍、大日本図書、それから教育出版なども基礎的、基本的な学力の定着を図ることを意図している教科書だと、特にわかるわけです。東京書籍の場合は、学び合いのページを新設して、問題解決学習を通して思考力や表現力を育成していく。その意図が他の教科書とは違って、少し秀でているのかなと思います。どこの教科書も基礎・基本をしっかり教えるわけですが、東京書籍がよろしいかと思います。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

私は今回、各教科書について、先ほども触れましたが、なぜその教科が存在するのかということに注目をして拝見しました。数学についても、この定義は何なのかに注目をして教科書を拝見しました。そうしたところ、東京書籍はほとんど触れていませんでした。

大日本図書には書いてあるけれども、私にはよく理解できませんでした。

教育出版には、新しい規則や性質、法則などを発見しよう。それから学んだことを日常生活や社会に利用してみよう。自分の考えをわかりやすく、ほかの人に説明してみよう。という3項目が挙げられていました。これでもいいのかと思いますが、他の教科書、例えば学校図書では、算数で学んだことを広げる。物事を正しく伝えるために数学的表現を使って、筋道を立てて説明し、記述すること。世界の人々に広く通じる共通語、科学の言葉です。科学技術の発展や環境問題の改善のためのものだというのを学校図書は書いていました。

それから、日本文教出版には、人類が数千年かけて発見し、築き上げてきたものである。科学や経済などの基礎となるものである。数学を学ぶときに身につけていく考える力や伝え合う力が、これから必要な生きる力になっていきますということが書いてありました。

書いてあるからいい教科書だということにはならないにしても、特に私もですが、数学がなければ人生が変わったんじゃないかと思うくらいの苦勞をした人間としては、こういったところから勉強する姿勢を見つけて欲しいと思います。日常、教室でどう展開するかはまた別の話として、やはり数学ができるから数学が好きになって先生になる方が多いと思いますので、数学のわからない生徒が、なぜこれを勉強しなくてはならないのかということ、きちっと教科書で定義する必要があるのではないかと思います。

それから、東京書籍は1年生から3年生とも、日常的、かつ歴史的な事柄を扱っていて、勉強する上で、動機づけという意味ではいいのではないかなと思います。私も総体的に考えて、東京書籍を推します。くどいようですが、なぜ数学を勉強するのかという定義は、もっとしっかりと位置づけして欲しいと、条件付きで推すということになろうかと思います。

それでは、数学につきましては、東京書籍を推すということによろしいでしょうか。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

では、そのように決定いたします。

それでは次、理科、お願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

それでは、理科の審議結果について、ご報告申し上げます。

資料の17、18ページをご覧ください。

理科の教科用図書は、全5社から発行されており、現在採択されている教科用図書は、東京書籍です。

審議会において評価の高かったものは、東京書籍、大日本図書です。

東京書籍は、資料等が充実しており、生徒の興味・関心を高める工夫がされていること。また実験が1ページにまとめられており、使いやすいこと。防災や日本の最新科学情報の内容が充実していること。表記・表現等については、文字が大きく、文字数を精選し、わかりやすい平易な表現を用いていること。写真等が効果的に使われている点で高く評価されました。

大日本図書は、内容について、他教科等との関連づけが図られていること。また環境への細かい配慮がされていること。実験の説明図などがわかりやすく表記されていること。巻末の資料が、博物館や動物園等、生徒の興味・関心を引く工夫がされているという点が高く評価されました。

その他の教科用図書につきましては、お手元の資料をご参考にしていただきますよう、お願いいたします。

ご審議、よろしくお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

理科について、ご意見どうぞ。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

理科について、各教科書ありますが、結論から申し上げますと、私は東京書籍を推したいと思います。

理由は、それぞれの教科書でも扱っておりますが、探求型の学習が明確に示されていることです。導入として行われる活動の写真や資料、課題の発見、そういうものが全体の課題としてまとめられています。さらに、このまとめが対になっていることから、自己表現活動を高めるため、書くマークや話すマークが設定されている点。結果を整理して、思考しやすい方法が示されているなど感じました。

それから、防災や日本の最新情報の内容が非常に多く採用されて充実している点。最後になりますが、写真等が効果的に使用されており、文字も大きく、平易な表現を用いて大変見やすかったという点で推薦したいと思います。

委員長（山城清邦君）

教育長。

教育長（宮林 徹君）

私も理科が得意でなく、苦手でした。やはり東京書籍なのかなと思いました。各章の初めに今まで勉強した事項の確認がしっかりあって、まさにあきる野市の小中一貫教育の考えに適している教科書だと私は思いました。

それから、何ととってもわかりやすくてきれいなイラストや写真がふんだんに使われていました。子供たちは、とかく理科となると難しく感じてしまいましたが、視覚から訴えて理解できるように随分配慮されていると思います。他の教科書と比べると、東京書籍がよろしいのかと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

特に東京書籍と大日本図書、学校図書を見比べさせていただきました。学校図書のよい点は、実験の図が大変大きく描かれてわかりやすいという点と、科学の窓というコラムで、地層に保存されている有機物の利用について、実際の場面を用いて子供たちに説明されていたのでイメージしやすくて大変よいなと思いました。

大日本図書の方は、それぞれのページが大変工夫されていました。資料の目新しさ、今現在どういう科学技術が使われているかという点では、少し物足りないなという印象を受けました。

それに比較すると、東京書籍は情報量が多いのに、大変見やすく配置されているという点が優れているのではないかと思います。また、理科が小学校に関連して、成り立っているということが、最初のページでも定義されていますので、その点でも理科の分野になじみやすいのかなと思い、東京書籍を推したいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

今、東京書籍を推す意見が多いと思いますが、私も東京書籍がいいと思いました。重複になりますが、写真やイラストが非常にきれいで大きく、効果的に使われており、生徒の理解を促すように感じます。また、文字も大きく非常に見やすいと思いました。巻頭や巻末にある資料が非常に充実しているのも評価したいと思います。

各単元の初めに、今まで学習したことの確認があつて、それから新しい内容に入っていく。その新しい内容が終わった後には、学習内容の整理や確かめと応用があり、内容を振り返って復習しやすいという、構成が出来上がっていると思います。

また、内容的にも防災や自然災害の扱いが大きく、生命尊重や自然環境の保全に関する内容が多く取り上げられているのも評価したいと思います。

あと、観察や実験、生徒が主体的に取り組むような場面も多く、興味や関心を持って学習に取り組めると思いました。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

私は、今回各社拝見した共通の印象としては、索引が貧弱だと感じました。もっと索引を細かに出した方が、自分の知りたいところを探しやすいのではないかと思います。

それから、記述ですが、社会科では東日本大震災という言葉を使っていますが、理科では、東北太平洋沖地震になっています。これはどうしてなのかと見てみましたら、説明しているのは教育出版だけでした。東日本大震災と東北太平洋沖地震について、今の生徒たちは4年前のことなので知っていますが、説明をしないでいいのかと思いました。

それから、東京書籍の残念なところは、ポイントごとにフロムジャパン、日本の科学という項目が幾つか挙がっていますが、この英語標記のフロムジャパンというネーミングはどうなのかと。あとは片仮名で日本の科学と書いてありますが、何か寂しい感じがしました。

それと、もう一つ。理科は、電流と電圧の関係については、教育出版の説明が一番わかりやすいのかなという印象を持ちました。

それから、今回注目して見たところが、今非常に問題になっている地震についてです。プレートテクトニクス理論が、どのように生まれてきたのかをヴェーゲナーという名前を挙げて、きちっと歴史的な経過を説明していたのは、学校図書、啓林館、それから大日本図書、教育出版でした。東京書籍は大陸移動説、プレートテクトニクス理論がどうして生まれたのかについては、全く触れてなかったように思います。

それから、よく話題になるマグマという記述は必ず出てきますが、なぜできるかについて詳しく書いてあるのは学校図書だけでした。そういった意味では、ばらつきがあつて迷うところですが、私としては教育出版がよろしいのではないかという印象を持ちました。

以上です。

他にご意見はありますか。よろしいですか。

《はい》

委員長（山城清邦君）

それでは、理科につきましては、東京書籍を推す意見が多数ということで、東京書籍と決定いたします。

それでは、続きまして、音楽 一般をお願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

音楽の一般について、ご報告申し上げます。

資料の19ページをご覧ください。

音楽の教科用図書は、全2社から発行されており、現在採択されている教科用図書は、教育芸術社です。

教育出版は、鑑賞教材に活動例を示すなど、主体的に学習する工夫がされていること。和楽器の取り扱いが充実するように配慮されている点が評価されました。

教育芸術社は、ワークシートで生徒が主体的に学習する工夫がされていること。また系統性が配慮されており、3年間を見通した学習の積み重ねが期待できること。巻頭の資料が各単元の内容や目標が示されており、使いやすいこと。ページを開いた際に譜面台に載せやすく、扱いがよいという点が評価されました。

報告は以上です。ご審議、よろしくをお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ご意見どうぞ。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

今報告していただいた中にもありましたが、教科書を開いたときに譜面台に載せやすいというのは、まさに現場の先生方の意見が非常に濃いところだと思います。実際の使い勝手が悪い教科書というのは、やはり使いづらいと思いますので、その点も非常に評価したいと思います。

私は、教育芸術社がいいと思いました。巻頭や目次の次に音楽学習マップがあり、学習の内容や目標が示されており、見通しが持ちやすいことと、歌うときの姿勢や指揮の仕方については非常にわかりやすい図と的確な表現で表しているのもいいと思いました。

教育出版と比べながら、曲の掲載されているページを見ると、教育出版の方が、写真やイラストを使って、すごくカラフルに、曲のイメージをつかみやすいように工夫されている気がしました。一つの曲が2ページや3ページにわたって説明してありました。反対に、教育芸術社は写真やイラストも小さ目で、シンプルであっさりしていました。その分、生徒は自分のイメージを膨らませたり、集中しやすいのかなとも感じました。

また、教育出版では、書き込めるワークシートがあるのも生徒が主体的に学習に取り組みやすいという点で非常にいいと思います。巻末にある音楽の約束というところでは、音楽を学ぶ上での知識が簡潔にまとめられていて、わかりやすいと思いました。

以上のことから、教育芸術社を推したいと思います。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

私も教育芸術社を推したいと思います。教育出版も拝見しましたが、分量的に物足りないという印象が第一にありました。ただこれは、指導時数の関係もあってこの量でやらざるを得ないのだろうなと思いました。

そうした中で教育芸術社は、フレーズのまとまりや様式が1ページでまとめられるようになっており、そういう点では教科書として、先生方も楽譜としての使い勝手がいいのかなど。

それから、イラストや図版は見やすいように、大きさ等についても工夫されているように感じました。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

私も教育芸術社の方が秀でているかなと思います。中の図版等の美しさはどちらもいいと思います。ただ他の教科にも言えることですが、折り込みページを適切に使わないと、大変なマイナスになるのではないかと思います。大人が扱うわけではないので、乱雑に扱ったり、毎日使って使用頻度が多い場合もあると、切れやすいとか、折れ曲がりやすいとか、折り込みページはよく考えて使わないと学習の妨げにもなりやすいと思います。その点、教育芸術社は考慮されているなという印象を受けましたので、教育芸術社を推したいと思います。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

教育長。

教育長（宮林 徹君）

甲乙つけがたいですね。教育芸術社の方がワークシートなどで子供たちが主体的に取り組めるように工夫されています。教育出版は、和楽器などの取り扱いが充実しているように思います。どちらをどうとっていくかは、先生によるとと思いますが、総合的に評価が高いのは教育芸術社だと思います。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

私も、とにかく譜面台に載せやすいという点は、本当に決定的なことじゃないかと思います。教育出版のいいところは、ポピュラー音楽図鑑というのが見ていて楽しかったです。

それから、コンピューターと音楽、2年生、3年生の下巻になりますと、義太夫の譜面が載っていたりしました。音楽年表には、耳になじんでいる人たちが載っていて、親しみやすかったです。結論としては、教育芸術社でよろしいのかなと思った次第でございます。

それでは、音楽一般に関しましては、教育芸術社を推すということによろしいですか。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

では、そのように決定させていただきます。

続きまして、音楽の器楽合奏をお願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

続いて、音楽の器楽合奏の審議結果について、ご報告申し上げます。

資料の20ページをご覧ください。

教科用図書は、全2社から発行されており、現在採択されている教科用図書は、教育芸術社です。

教育出版は、器楽教材と他の学習と関連させて取り扱う工夫がされていること。また楽譜が大きく見やすいという点が評価されました。

教育芸術社は、写真等が充実しており、生徒の興味・関心を高める工夫がされていること。また平易な楽譜を用いているため、短時間で習得できる内容であること。ページを開いた際、譜面台に載せやすく、扱いがよいという点が評価されました。

報告は以上です。ご審議、よろしくをお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

それでは、音楽 器楽合奏について、ご意見をどうぞ。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

音楽は器楽と一般の教科書を両方併用して授業を進めていくと思いますので、できれば同じ出版社の方がいいのではないかと、ということが前提にあります。

先ほども述べましたが、教育芸術社は、教科書を開いたときに譜面台に載せやすいこと。音楽学習マップというのがある、学習の内容や目標の見通しが持ちやすいこと。また、掲載されている曲を見たときに、誰もが耳にしたことがあるような、生徒が親しみやすいような曲が多く取り上げられていて、非常に興味や関心を持ちやすいのではないかと思います。

そして、取り上げている楽器が、リコーダー、ギター、琴、三味線など日本の伝統楽器プラス打楽器を育芸術社では大きく扱っていました。そういったものに関心がある生徒もいると思うので、非常にいいと思いました。

教育出版社でよかったと思ったのは、取り上げている楽曲数がより多いのかなと感じたところです。

巻末にギターやキーボードのコード表がありますが、写真やイラストつきになっているので、わかりやすいと思いました。高校生になると、音楽に興味を持って、バンドでギターやキーボードをやるなんていうときに、こういったものが役に立つのかなと思いました。

総合的には、教育芸術社を推したいと思います。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

他にご意見ありましたら、どうぞ。

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

私も結論としては、教育芸術社がいいと思います。やはり音楽の一般の教科書と同系統がいいのかなという点の一つ。それから私自身、楽器を扱うことが大変苦手で、そういう苦手な人から見ると、教育芸術社の方が身近に接している音楽を取り上げて、楽器を使うという構成になっています。その点で、子供たちにとっても取扱いが大変いいのではないかなと。また、音楽は本当に身近にあるので、少しでも自分ができたという達成感が湧くと、他の教科にもいい影響があるのではないかと、いい方に考えています。そういう点でも達成感を得やすいのは、教育芸術社の方が教科書としては適切かなと思っております。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

ご意見、特になければ結構ですが、よろしいですか。

《ありません》

委員長（山城清邦君）

それでは、音楽 器楽合奏については、教育芸術社を推すということでよろしいでしょうか。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

そのように決定させていただきます。

続きまして、美術をお願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

美術の審議結果について、ご報告申し上げます。

資料の21ページをご覧ください。

教科用図書は、全3社から発行されており、現在採択されている教科用図書は、光村図書です。

開隆堂は、表紙、裏表紙に現代作品を取り上げており、資料等が充実していること。また基礎・基本の定着と発展のバランスのよい内容であるという点が評価されました。

光村図書は、時代や地域性が幅広く、バランスがよいこと。また写真、図が大きく、効果的であり、生徒の興味・関心を高める工夫がされていること。各ページのレイアウトが決まっており、すっきりとして読みやすい点が評価されました。

日本文教出版は、各ページの見出しが、生徒の主体的な学習活動を促す工夫がされていること。また巻末資料が充実しており、印刷状態がよく使いやすい点が評価されました。

美術の報告は以上です。

ご審議、よろしくをお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

では、ご意見ありましたら、どうぞ。

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

光村図書のきれいな写真や図が印象的でした。それから、開隆堂もよかったのですが、ページによって写真の取り扱いが貧弱な部分と大きく取り上げている部分の差が大き過ぎ

るかなという気がしました。また、ページを折り込んで紙面を大きくとっているところもありましたが、作品が横向きに印刷されているところがありました。私は、それは上手くないのではという気がいたしました。

総合的に見て、光村図書の本がよろしいのではと思います。

委員長（山城清邦君）

他にご意見ございますか。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

私も光村図書がいいと思います。写真や図が大きく、生徒の興味を引くようなレイアウトになっています。

また、身の回りにあるシンボルマークやゆるキャラなども取り上げていて、日常生活の中にある美術というものにも焦点を当てているのが非常にいいと思いました。

生徒作品と美術作品を半々ぐらいに紹介していて、とてもバランスのいい内容になっていると思います。

また、巻末の「学習を支える資料」というところで、道具や技法、材料などの特徴がわかりやすく、具体的に説明されていて、非常に使いやすいと思いました。

開隆堂で私がいいなと思ったのは、美術2、3年の「絵巻物の世界」で、昔の絵巻物を取り上げているところです。日本の伝統的なアニメーションとして紹介していて、普通の教科書のように、右から左へと物語が進むようになっています。一般的な美術の教科書とは逆順で見る構成になっていて、非常におもしろい視点だなと感じました。

以上です。

推したいのは、光村図書です。

委員長（山城清邦君）

教育長。

教育長（宮林 徹君）

私も光村図書の教科書がいいと思います。非常にバランスがよく、先生方が指導しやすいだろうと思います。オーソドックスに基本をきちんと教えられる教科書ですので、そういう点では扱いやすいし、写真や図が大きく、子供たちも取っつきやすい教科書だなと思います。基本的なことがしっかりと学べる教科書だと思います。

委員（丹治 充君）

私も異議はありません。

委員長（山城清邦君）

よろしいですか。

委員（丹治 充君）

結構です。

委員長（山城清邦君）

私も、正直光村図書しかないだろうと思いました。まず、裏表紙に、なぜ人間は、何かをうつくしいと思うんだろう。と掲載されています。それから、三十三間堂の風神雷神の紹介のところに、アーサー・ビナードによる書き下ろしの詩が載っておりました。それか

ら、ピカソのゲルニカについて、谷川俊太郎の詩が載っていました。全体的にこれよりほかはないだろうという感じが私もいたしました。

それでは、美術に関しては、光村図書を推すということでもよろしいでしょうか。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

では、そのように決定いたします。

続きまして、保健体育をお願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

保健体育の審議結果について、ご報告申し上げます。

資料の22、23ページをご覧ください。

保健体育の教科用図書は、全4社から発行されており、現在採択されている教科用図書は、学研教育みらいです。

審議会において評価の高かったものは、東京書籍、学研教育みらいです。

東京書籍は、身近な題材を取り上げ、生徒の興味・関心を高める工夫がされていること。配列がよく、見やすく、扱いやすい工夫がされている点が高く評価されました。

学研教育みらいは、解説が充実しており、生徒の実態に合っていること。また章のまとめが充実しており、主体的な学習を促す工夫がされていること。写真等でさまざまなユニバーサルスポーツを取り上げており、効果的であるという点が評価されました。

その他の教科用図書につきましては、お手元の資料をご参考にさせていただきますよう、お願いいたします。

ご審議、よろしくをお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

保健体育につきまして、ご意見ありましたらどうぞ。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

保健体育については、学研教育みらいを推したいと思います。他の教科書と比べた際に、内容に大きな差はありませんが、一番使いやすいと思います。

それから、今報告がありましたようにユニバーサルスポーツを取り上げていることは、インクルーシブ教育の観点からいっても大事な視点だろうという印象を受けました。私は学研教育みらいを推したいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

教育長。

教育長（宮林 徹君）

私も学研教育みらいがいいと思います。今、丹治委員が言われたように、いろいろな視点があると思います。私は特に、防災教育や心の健康、オリンピック・パラリンピックなどを重視している点に着目しました。それから、がん教育やアレルギーなど、現代的な課題や健康課題を積極的に取り上げて教科書の編集がされているところにも大変関心を持ち

ました。そういったことから、学研教育みらいがよろしいと思います。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

ご意見ありますか。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

今お二方は学研教育みらいということでしたが、私はあえて東京書籍を推したいと思います。少し版が大きくなったということで、確かに持ち運ぶ際には重くなったという面もあるとは思いますが、大きくきれいで、インパクトのある写真を使っており、生徒が非常に興味を持ちやすいように工夫されています。

巻頭に教科書の使い方が提示されていて、学習のねらいなど、わかりやすいと思います。また、小学校からのつながりで学べるように内容が工夫されており、小中一貫教育にも配慮した内容になっています。教科書に書き込みをするスペースがあり、生徒が自分から主体的に学べる工夫もあります。

章末資料の中に、非常に有効だと思われるものが多く掲載されていました。例えば元プロ野球選手の松井秀喜さんからの「いじめられている君へ」というメッセージや、スポーツ障がいの項目ではテニス肘やサッカー足など、部活動をしている子にとって身近な事例が紹介されていたり、自転車の安全な乗り方や地域の安全マップの作成法など、あきる野市の生徒の実態に即した内容を取り上げている部分が非常に多かったです。また、防災や自然災害についての扱いも大きかったということで、私は東京書籍を推したいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

宮田委員、どうぞ。

委員（宮田正彦君）

私は、東京書籍と学研教育みらいの2社かなと思いました。子供たちが実際の生活の中でいろいろな悩みを抱えていることを考えると、学研教育みらいの方が、特徴があるといえはると思います。例えば、たばこ、酒、薬物に手を出さないためということで、実際の断り方などを図で示してありました。心に悩みを抱える子供が多いことを考えると、内容が詳し過ぎるような感じますが、学研教育みらいの方が実際の生活に即しているかと思うので、私は学研教育みらいを推したいと思います。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

私は正直に言って、この4社とも長所も短所も同じようで、優劣をつけがたく感じました。そういった意味では、現場の先生方が使いやすいと考えるのであれば、学研教育みらいでよろしいのではないかなという意見です。

それでは、保健体育につきましては、学研教育みらいを推す意見が多いということで、決定することよろしいでしょうか。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

それでは次に、技術・家庭 技術分野をお願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

それでは、技術・家庭 技術分野の審議結果について、ご報告申し上げます。

資料の24ページをご覧ください。

技術分野の教科用図書は、全3社から発行されており、現在採択されている教科用図書は、開隆堂です。

東京書籍は、基礎的技能がまとめられており、基礎・基本の内容の定着を図る工夫がされている点が評価されました。

教育図書は、教材を多く取り上げ、興味・関心を高める教材が選択をされているという点が評価されました。

開隆堂は、学習目標が示されており、單元ごとの学習内容がわかりやすいこと。また、図表等の色彩が見やすく、効果的であること。社会・環境に配慮した事項が充実している点が評価されました。

報告は以上です。ご審議、よろしくをお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

技術分野につきまして、ご意見をどうぞ。

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

3社ともほぼ同じかなという気がしました。開隆堂の方は、興味や関心を高揚させるような、生徒にとっては新しい技術や生活に取り入れられている実的な技術などいろいろ示されていて、大変興味を引くのではないかと思います。

もう一点は、いろいろな工作機械を使う危険な学習の際に、安全面を考慮した記述が見られましたので、開隆堂を推したいと思います。

委員長（山城清邦君）

他にご意見をどうぞ。

田野倉委員。

委員長職務代理人（田野倉美保君）

私も3社、それほど差異はないかなと思いました。その中でも、私は東京書籍がいいかなと思いました。というのは、巻頭のガイダンスに、技術は夢をかなえるためにあるんだ、技術は未来をつくるんだという視点から導入してあって、なぜ技術を学ぶのかについて生徒の理解が深まると思いました。

また、道具の使い方や写真やイラストなどが非常に効果的に使われていて、わかりやすく説明されています。

また、コンピューターと情報通信ネットワークというところでは、インターネットのプラス面、マイナス面についても、生徒に非常にわかりやすく、主体的に考えさせるような内容の扱いになっていて、今日的な問題提起となっているのは非常にいいと思いました。

また、防災や自然災害の扱いも大きく、教科書の最後に、切り取って活用できる防災手

帳がついていました。家庭に1つあると、何かのときに役に立つのかなと思ったので、私は東京書籍がよいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

他にご意見ございますか。

教育長。

教育長（宮林 徹君）

開隆堂がよろしいかと思えます。特に、循環型社会の形成を大きくアピールしていることや、冒頭で技術分野のガイダンス的な内容がしっかりしていること。また、終わりの部分で技術分野のまとめをしっかり学習させる構成になっているところなどは大変いいなと思えました。

教育出版や東京書籍も、それほど差はないですが、開隆堂の教科書を引き続き使っていたらいいんじゃないかと思えます。

委員長（山城清邦君）

丹治委員。

委員（丹治 充君）

私も結論から言いますと、開隆堂を推したいと思えます。全体的に見て、今お話ありましたように、それぞれの教科書の特色はあるけれども、そんなに大きな違いはないと。そういった中で、先生方が扱いやすいだろうという観点、それから国際化等への対応を見ていったところ、開隆堂を推したいと考えました。

それと、全体的な色合い、表現については、若干開隆堂の方が見やすいのかなという気がいたしました。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

私としては、技術の教科書は、なぜこんなに内容が盛りだくさんなんだろう。1年で履修できるものなのかなという感じがいたしました。内容的には甲乙つけがたいですが、この3社のうちで索引をつけているのは東京書籍だけでした。先ほど田野倉委員からお話がありましたが、巻末に防災手帳があって、ミシン目が入っていて、切り取れるようになっています。この編集努力は評価すべきではないかという気がいたします。内容的には、あまり差異はありませんが、編集努力を評価するという意味で、私は東京書籍を推したいと思えます。

というわけで、技術に関しては、開隆堂を推す委員が3名、東京書籍を推す委員が2名ということで、結論としては、開隆堂を推すということによろしいでしょうか。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

それでは、開隆堂と決定いたします。

続きまして、家庭分野をお願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

家庭分野の審議結果について、ご報告申し上げます。

資料の25ページをご覧ください。

家庭分野の教科用図書は、全3社から発行されており、現在採択されている教科用図書は、開隆堂です。

東京書籍は、大判の紙面を用いて、基礎的・基本的な学習とその他の資料や実習例の内容を区別し、見やすい構成であるという点が評価されました。

教育図書は、料理例が充実しており、選択肢が広がるという点が評価されました。

開隆堂は、実物大の写真等を効果的に活用し、生徒の興味・関心を高める工夫がされていること。また、配列・分量等については1時間に1ページの内容で学習を進めるよう工夫がされているという点が評価されました。

報告は以上です。ご審議、よろしくお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

それでは、ご意見どうぞ。

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

特にどれが秀でているということはないと思います。ただ、開隆堂は、単元の中で、家族、家庭と子供の成長という分野を比較してみますと、他の2社に比べて効果的に写真や体験談などを載せてあります。そこを子供に読ませると、ちょっと違う視点で学べるのかなど。防災訓練や育児休暇など、実際に行われていることを書いてあるページがあって、そういう点で実際の生活と乖離してないという点では、教科書が大変読みやすく、またわかりやすくなっているので、開隆堂を推したいと思います。

委員長（山城清邦君）

他にご意見ございますか。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

結論から申し上げます。私も開隆堂を推したいと思います。男子の技術の時間配分はいろいろですが、裏表の関係で扱ったり、技術・家庭を双方同じような時間で設定する場合があります。当然内容等についても、同じ教科書会社の方が、その辺よく配慮等されていると思いました。

それから、開隆堂は現在と比べて若干ページ数も増えた気がしました。

あと、家庭分野の学習の中で、安全や防災教育等についても丁寧に扱われていますので、当然男子も履修することを考えて、開隆堂を推薦したいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

先ほど、技術では東京書籍と言いましたが、家庭では開隆堂がいいと思いました。小単

元ごとに学習のめあてが明記されていて、学習内容が把握しやすい、あるいは見通しを持って学習に取り組めるという構成になっています。

教科書によって、学習する順番が異なりますが、開隆堂は、まず家族、家庭という身の回りのことから、衣食生活、衣食住、消費生活となっていて、自分が一番身近なことから学習していく、自然な流れになっていると思いました。写真や表も多く、知的好奇心を刺激して興味を抱かせる工夫も見られていいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

教育長。

教育長（宮林 徹君）

技術分野が開隆堂なので、セットで同じ教科書を使った方がいいと思います。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

私も開隆堂を推します。理由は、幼児のことが各教科書とも書かれてありましたが、小さな子供との接し方については、開隆堂の記述が一番現場に合っているのかなと思ったからです。

東京書籍の副題として、自立と共生を目指してという表題はよかったなと思います。

それでは、技術・家庭 家庭分野につきましては、開隆堂を推すということで決定してよろしいですか。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

では、そのように決定いたします。

続きまして、英語をお願いいたします。

指導主事（梶井ひとみ君）

それでは、英語の審議結果について、ご報告申し上げます。

資料26、27ページをご覧ください。

英語の教科用図書は、全6社から発行されており、現在採択されている教科用図書は、三省堂です。

審議会において評価の高かったものは、東京書籍、開隆堂、教育出版です。

東京書籍は、学校生活の場面など、身近な題材を使用しており、生徒が興味・関心を引く工夫がされていること。同じ国やテーマを別の側面から繰り返し取り上げるなど、構成がスモールステップになっており、生徒にとって学習しやすいこと。国際的な題材を意識的に扱っており、資料も充実していること。また、系統性や発達段階を考慮した配列であり、使いやすく、挿し絵等も効果的に使用されているという点が高く評価されました。

開隆堂は、スピーチの手順などがわかりやすく、主体的な活動ができる工夫がされていること。また、巻末の資料等が充実しており、使いやすいという点が高く評価されました。

教育出版は、世界で活躍する日本人など、国際的な題材を多く扱っているという点が評価されました。

その他の教科用図書につきましては、資料をご覧ください。

英語については以上です。ご審議、よろしくお願いいたします。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

現在は三省堂を使っているわけですね。

指導主事（梶井ひとみ君）

はい。

委員長（山城清邦君）

ご意見どうぞ。

田野倉委員。

委員長職務代理人（田野倉美保君）

今、選定資料審議会からの報告ということで、説明がありましたが、あえて個人的な意見を言わせていただきたいと思います。

今、評価の高かった東京書籍、開隆堂、教育出版以外に学校図書という教科書があります。英語には、b e 動詞と一般動詞と大きく分けて2つあります。学校図書以外の教科書は、全部b e 動詞から習い始めるんですが、学校図書だけは一般動詞から始まっているんです。英語を中学生になって学習し始めて、生徒が最初によくわからないなと感じるのは、その一般動詞とb e 動詞の使い方の違いなんです。否定文や疑問文を作るときに、b e 動詞は特殊な作り方をします。その特殊なものから学習して、その後に普遍的な一般動詞を教える教科書が多数なんです。学校図書だけは、一般動詞という普遍的なものから学習して、b e 動詞という特殊なものを後で学習するという順番なんです。

学校の先生方から、一般動詞から始まることは扱いにくいという意見がありました。もちろん両方の意見があると思いますが、私としては、一般動詞から入った方がわかりやすいかと思います。特に英語は、どんどん指導要領の内容が変わっていますし、小学校の高学年から教科化されるという話もあります。中学生になってb e 動詞から学習し始めますが、学校訪問の際に小学校の外国語活動を参観しますと、実際にはすでに一般動詞を使った対話などをやっているのを見ます。なので、b e 動詞から始めることにこだわらなくてもいいのかなと私自身は思います。あえて現場の先生たちの意見に真っ向から反対しようとは思いませんが、一応私の意見としては、一般動詞から始まった方が、生徒たちにとってはいいのかなということを、せつかくの機会ですので述べさせていただきたいと思います。

もう一つ、学校図書がいいなと思ったのは、対話文が多いんです。聞く、話すの実際のコミュニケーションに、かなり重点を置いている教科書だと思います。

先生方の中で一番評価が高かった東京書籍のNEW HORIZONも、基礎・基本の単文があって、対話があって、それから物語という順番で徐々に発展していくようになっています。その4つの話す、聞く、書く、読むの中では、どうしても読むに視点を置いている教科書が多いと思います。学校図書を外して考えると、東京書籍は、その他の教科書の中では一番バランスよく4つの技量が身につけられるように構成されていると思います。

ただ、私がマイナスだと思っているのは、3年生で扱っている題材が、日本文化の紹介

はいいにしても、東日本大震災からの復興についてのエピソードやノーベル平和賞を受賞したアウンサンスーチーさんの半生の物語、パラリンピックで招致活動をやった佐藤真海さんの半生の物語など取り上げているところです。確かに中学生にぜひ読んでもらいたい内容は内容なんですが、少し難しいかなと。発展的な内容という部分がありますが、高校で学習する文法が出てきてしまっているんですね。高校で習うことですのでというのは、明記されているんですが、中学生にとって高度な表現が出ているのが気になりました。

結論ですが、個人的には学校図書を本当はいいなと思ってはいるんですが、現場の学校の先生方の意見も踏まえると、東京書籍がふさわしいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

東京書籍でよろしいですか。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

はい。

委員長（山城清邦君）

丹治委員。

委員（丹治 充君）

私も東京書籍を推したいと思います。1年生、2年生、3年生と積み上げていくわけですが、現在では、小学校の英語活動が当然入ってきます。そうした小中連携を踏まえた教材がつくられています。現在の課題の一つだと思いますが、海外へのホームステイが非常に少なくなっているそうです。その点で、もっと夢を持たせながら、海外へ進出していくという点から、2年生では、ホームステイの題材が掲載されていたり、3年生では、現代社会の課題ともいえる、日本の文化について深く考えさせることで、日本人としての、子供一人一人のアイデンティティーが育てられていくのかなという思いがいたしました。他の教科書も当然ながら、それぞれ特色があって、非常にいい教科書ですが、最後の決め手になったのは、指導者が一体どうやって、その課題に迫っていくのか、どうやったら教育効果が上がるのかということを考えていくと、英語科の教員が授業しやすい教科書を使うべきだろうと感じたので、東京書籍を推しました。

以上です。

委員長（山城清邦君）

他にございますか。

教育長。

教育長（宮林 徹君）

先ほどの田野倉委員のお話を聞いていると、そうだよなと思うわけですが、先生方の評価を聞いてみると、一般動詞から始まっていくのは使いにくいと言っているのですよね。そういう先生方の意見があって、東京書籍が良いとなったのではないかと思います。

1年次を国内、2年次を海外と系統性や発達段階を踏まえて配慮されている教科書ですし、分量的にも非常に適切で、巻末では身近な単語がしっかりとまとめられています。基礎的・基本的なものを、よりしっかりと勉強させるという点では、東京書籍の教科書が最適だと現場の先生方は思ったのだと思います。

そうはいいながらも、今後小学校から英語が必修になりますので、日頃の授業については、一般動詞から教えることも含めて、今後検討していかなくてはならないだろうと思います。

今回は、東京書籍を選びたいと思います。

委員長（山城清邦君）

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

私は東京書籍と開隆堂、三省堂を見させていただきました。三省堂は、無難なつくりになっていますが、そこが今の子供にとって有益なものなのかなという点が疑問でした。絵が大変多い教科書で、題材として少し物足りなく感じるのではないかなと思いました。

開隆堂は、挿し絵が工夫されていますが、ユニバーサルデザインの観点から考えると、少し色を多用し過ぎて、かえって集中しづらい、取っつきにくい点になってしまうのではないかなと思いました。

その点、東京書籍は、実際の授業でCDを用いて発音しながら対話の練習をするかと思いますが、発音記号がきちんと記されていて、便利でいいなと思いました。

また、全体的なバランスを考えると、東京書籍が他の出版社より少し優れているかなという気がしますので、東京書籍を推したいと思います。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

各社とも印象的だったのは、英語の勉強に限らず、フェアトレードやアウンサンスーチーさんなど、今世界で起きている政治的、経済的な事件を積極的に取り入れているところです。非常におもしろいなと思いました。

そういった意味で、英語を通じて世界への扉を開こうという観点から見ると、東京書籍と学校図書がいいのかなと私は思いました。その他、開隆堂もベーシックにダイアログがまとめられていたり、いいなと思うところもありました。

ただ、やはり私の世代などは、英語については会話よりも読みに重点があったのかもしれませんが、東京書籍の1年生、2年生、3年生の中に出てくる、注文の多い料理店の英訳本やオー・ヘンリーのお話であるとか、大工さんの贈り物など、いろいろと考えさせる教材も載っていました。実態はなかなか難しい面もあるかもしれませんが、生徒が勉強してきて、こういった読み物に触れたときに、会話も大事だけれどもこういう意味の深い話を読めるようになったんだということになれば、とても達成感はあるし、英語の授業を超えて生き方などに通じるものがあるのではないかなと感じました。発展的な教材の展開の仕方という意味では、東京書籍がよろしいのではないかなと思った次第です。

他にご意見ございますか。

《なし》

委員長（山城清邦君）

それでは、英語につきましては、東京書籍を全員が推すということでしたので、東京書籍と決定させていただきます。よろしいですか。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

それでは、以上をもちまして、全ての教科の採択が終わりました。

再確認いたしますので、よろしくお願ひします。

まず、国語につきましては、教育出版。書写、教育出版。社会 地理的分野、東京書籍。社会 歴史的分野、東京書籍。社会 公民的分野、東京書籍。地図、帝国書院。数学、東京書籍。理科、東京書籍。音楽 一般、教育芸術社。音楽 器楽合奏、教育芸術社。美術、光村図書。保健体育、学研教育みらい。技術・家庭のうち技術分野、開隆堂。同じく技術・家庭 家庭分野、開隆堂。英語、東京書籍。

以上でよろしいでしょうか。

《はい》

委員長（山城清邦君）

このように平成28年度中学校の教科用図書につきまして採択をいたしました。どうもありがとうございました。

それでは、10分ほど休憩をとりまして、12時10分から次の議案第24号あきる野市学校給食センター運営協議会委員の委嘱についての審議をいたします。人事案件ですので、非公開となります。傍聴人の方におかれましては、教育委員報告をお聞きにならないという方は、この休憩時間中に退席していただいで結構でございます。どうもありがとうございました。

休憩 午後0時00分

再開 午後0時10分

委員長（山城清邦君）

続きまして、日程第2 議案第24号あきる野市学校給食センター運営協議会委員の委嘱についてを上程いたします。

本件は人事案件ですので、非公開で会議を進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

《異議なし》

委員長（山城清邦君）

それでは、非公開で会議を進めます。

《傍聴人退席》

=非公開=

続きまして、教育委員報告です。傍聴人の方がいらっしやらないようなので、このまま続けます。

それでは、教育長から報告をお願いいたします。

教育長（宮林 徹君）

1カ月の活動は書いてあるとおりです。一つ一ついろいろ説明もありますけれども、時間もないようですから、何か質問がありましたら、お答えいたします。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

他の委員から、この1カ月の活動でこれということがありましたら、どうぞ。

では、私から。7月11日のカルタ大会、7月18日の相撲大会、いずれも前年よりも右肩上がりで子供たちの参加数が増えました。大変盛り上がっていて、大変すばらしいなと思いました。特にカルタ大会はみんな一生懸命やっていましたし、相撲大会も女の子もたくさん出場して盛り上がっておりました。また来年、参加者がさらに増えるといいなと思った、すばらしい大会だったと思っております。

よろしいですか。

《なし》

委員長（山城清邦君）

それでは、教育委員報告を終わります。

それでは、事務局から今後の日程についてご案内をお願いします。

小林課長。

教育総務課長（小林賢司君）

それでは、今後の日程等につきまして、ご案内をさせていただきます。

8月6日木曜日でございますが、総合教育会議が午前10時30分から市役所5階505会議室で開催をいたします。

8月21日木曜日でございますが、東京都市町村教育委員会連合会研修推進会が午後1時から、理事会が午後2時から、そして午後3時から理事研修会が東京自治会館で開催をされます。山城委員長は推進委員及び理事になっておりますので、よろしく願いいたします。

最後に、次回8月の定例会でございますが、8月28日金曜日午後2時から505会議室で開催をいたします。

以上でございます。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、あきる野市教育委員会7月定例会を終了いたします。

閉会宣言 午後0時17分